

令和2年度 第2回千葉市スポーツ推進審議会議事録

- 1 日 時 令和2年12月22日(火) 午後2時00分～午後2時50分
- 2 場 所 千葉ポートサイドタワー12階 第1会議室
- 3 出席者 (委員)
小川直哉会長、本澤英雄副会長、小川重夫委員、五月女重夫委員、高橋薫委員
谷藤千香委員、萩原拓也委員、馬場宏輝委員、村松幸郎委員
(事務局)
市民局生活文化スポーツ部 那須部長
スポーツ振興課 山崎課長、笠井補佐、堀主査、草場主査、
前田主査、田口主任主事、吉田主任主事
公益財団法人千葉市スポーツ協会 内藤施設長
保健体育課 阿部課長、地曳主任指導主事
オリンピック・パラリンピック調整課 貞石課長
オリンピック・パラリンピック振興課 金課長補佐

4 議 題

(1) 議 事

ア 千葉市スポーツ推進計画改訂版(案)について

5 議題の概要

(1) 議事

千葉市スポーツ推進計画改訂版(案)についてご審議いただいた。

6 会議経過

開 会 午後2時00分

【笠井課長補佐】 それでは、定刻になりましたので、ただいまより、「令和2年度第2回千葉市スポーツ推進審議会」をはじめさせていただきます。

本日の進行を務めます、スポーツ振興課の笠井でございます。

なお、本審議会は千葉市情報公開条例により、公開することになっておりますが、本日の傍聴者の方は1名でございます。

傍聴する方に申し上げます。受付の際にお配りしました傍聴要領をご一読いただきまして、ご理解・ご協力いただきますよう、お願いいたします。なお、会議終了後、議事録の作成を行い、開示されることとなりますので、あらかじめご了承願います。

それでは、次第に従いまして、初めに小川直哉会長よりご挨拶をお願いします。

【小川(直)会長】 皆さん、こんにちは。本日は師走のお忙しい中、また、寒さの厳しい折に、第2回のスポーツ推進審議会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。皆様ご承知のとおり、世界中を席卷しておりますコロナウィルスでございますが、勢いが収まることなく、むしろいたるところで感染者が増えている状況でございます。あらゆるスポーツイベント・大会がほとんど中止になりまして、東京オリンピック・パラリンピッ

クも1年延期となりました。昨日、医療関係団体の記者会見を見ていたところ、医師会会長が日本の医療体制が風前の灯であるとおっしゃってしまし、非常に厳しい状況が続いております。そんな中でも、最近のスポーツに関して、嬉しいニュースがいくつかありました。昨年全英オープンで優勝しました洪野日向子選手が、今年も全米オープンで4位と健闘し、非常にうれしく思っております。柔道では、阿部一二三選手と丸山城志郎選手が、オリンピック代表選手が内定していなかった66kg級において、死闘を繰り広げ、まさに全力を尽くしての戦いに非常に感動いたしました。最後は技ありで、阿部一二三選手が勝利し、妹の阿部詩選手とともに東京オリンピック出場ということで、本当に素晴らしいことだと思っております。また、東京パラリンピック出場が内定しております道下美里選手が、自己の持つ世界記録をさらに更新したということで、これもまた素晴らしい快挙であると思っております。このような選手たちが活躍できるよう、どうか来年、東京オリンピック・パラリンピックが無事に開催されることを祈念しております。本日は、千葉市スポーツ推進計画の改訂版の審議ということであり、前回の審議会で委員の皆様からいただいた貴重な意見を改訂版に盛り込みまして、本日の案となっております。慎重な審議を行いたいと思っておりますが、コロナウィルス対策の面からも、スムーズに審議を行い、長時間とならないよう配慮し、進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【笠井課長補佐】 続きまして、生活文化スポーツ部長の那須より、ご挨拶申し上げます。

【那須 部長】 改めまして、皆様こんにちは。年末のお忙しい中、またお寒い中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。そして、日頃から、市政・スポーツ施策にご尽力いただきまして、誠にありがとうございます。会長さんからもお話がありましたが、新型コロナウイルスが世界で猛威をふるっている状況であります。日本の医師団からも、医療の緊急事態宣言ということで、初めて発出されました。世界各地でも、ロックダウンを行い、経済・各業界において、非常に厳しい状況が続いております。千葉市は、先週18日に市の施設、スポーツ施設や文化施設含めて、利用制限やイベントの中止などをお願いしており、年末年始の12月26日から1月11日まで、各施設の利用制限をしていく状況でございます。こういった中で、来年も厳しい状況ではございますが、スポーツ推進計画の改訂を来年3月に控えております。委員の皆様からは、前回の審議会において貴重なご意見、コロナウィルス対策のお話もいただき、そういった内容を含めて、案に盛り込み、今回、提案しております。慎重にご審議いただき、先ほどもお話がありましたが、長時間とならないよう、スムーズな進行をいただくと幸いです。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【笠井課長補佐】 ありがとうございます。以降の進行につきましては、小川直哉会長にお願いします。

【小川(直) 会長】 よろしく申し上げます。まず、議事録署名人についてでございますが、先ほど説明がありましたとおり、本審議会は会議の公開がされているところです。議事録の確定方法につきましては、あらかじめ、指名された委員による承認にしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

【各 委 員】 <異議なし>

【小川(直) 会長】 それでは、議事録署名人として、村松委員にお願いします。

【村松 委員】 よろしく申し上げます。

【小川(直) 会長】 それでは、会議次第に従いまして、進めてまいりたいと思っております。審議(1) スポーツ推進計画の改訂版(案)について、スポーツ振興課よりお願いします。

【草場 主査】 <資料により説明>

【小川 (直) 会長】 それでは、ご意見等をお願いします。

【小川 (重) 委員】 前回と今回の案を比べて、新型コロナウイルスの対応について、きちんと今回の案に反映されている。東京オリンピック・パラリンピックの件も盛り込まれている。また、説明がありました新規・拡充事業についても、特に、事業方針 I—①の21の体を動かすことの楽しさを伝える運動メニューの開発について、とても大事だと感じている。というのも、スポーツの概念が、世界・日本含め、変わってきている。特に最近では e-sports があり、これはスポーツなのかという意見もあるが、今までのスポーツの概念が変わってきている印象的な言葉である。やはり、新しいスポーツのとらえ方があるので、保育士や世界ゆるスポーツ協会と連携していくのは、非常に良いことだと思う。レクリエーションにおいては、ソフトスポーツというのがあり、単なる大きなサイコロを、足で蹴って遊ぶものがある。こういった形で、誰もが、運動経験のない方も気軽にできる、「苦しさ」ではなく、「楽しさ」を経験するスポーツは非常に重要である。しかも動画配信するということで、コロナ対策という意味においても、この新規事業は、大変良いものだと感じている。また、「新しい生活様式」の対応についても盛り込んでおり、非常に評価できる計画になっていると思う。

【小川 (直) 会長】 今年行ったジャパンビーチゲームズについて、私も参加したが、非常に好評で良かったと思っている。コロナの関係もあると思うが、来年度も実施する予定か。

【山崎 課長】 コロナ対策を行った中で、思った以上の方に参加いただいた。このビーチゲームズは、お台場で行われていたものを、オリンピックの関係で会場が使えないということで、誘致したものに なります。我々としては、オリンピックが終了し、お台場に会場が戻ったとしても、稲毛の浜・検見川の浜・幕張の浜を会場とし、拡充した形で行っていくということで、ビーチ文化振興協会と今後詰めていく予定です。

【小川 (直) 会長】 わかりました。ぜひ、よろしくをお願いします。

【村松 委員】 前回の審議会において、トップスポーツの交流というものをぜひ広げていただきたいということで意見したが、今回の計画 P23 でも、拡充ということで記載いただき、非常にうれしく思っている。やはり、小・中学生にとって、トップスポーツの選手たちと触れ合い、「見る」ということで夢をいただくので、ぜひ計画に沿って進めていただければと思う。また、「見る」というのは、スポーツであるという概念については、まだまだ広がってないように見受けられるので、自分がすることだけがスポーツではないんだというのを、どうやって小学生・中学生に伝えていくか、広げていくか、についても重要ではないかと思っている。

【高橋 委員】 我々は、トップスポーツ側だが、自分たちが良いと思ったことが、意外に違ったり、自分たちでは、あまりみんなに喜ばれないだろうと思ったことが、実はすごく喜ばれたり、わかっているようでわかっていないことが結構あるので、こういうことをやってほしいんだとプロクラブにどんどん言ってもらえるような、そんな仕組みがあると、私たちも有意義な協力・連携ができると思う。今年に限って言えば、選手との交流ができなかったのが、非常に残念だった。来年いっぱいも厳しいのかなと感じているが、そんな中でもできることを行っていきたい。オンラインの交流も行って見たが、意外に申し込みが少なく、オンラインの限界を感じたところである。やはり皆さん、リアルに直接、顔を見て会話をするというのを求めているのかなと感じた。そこは今後考えなければならないし、この時代の中で、子供たちに夢や希望をどう伝えていくか、

考えていきたいと思っている。

- 【山崎課長】今のご意見について、トップスポーツふれあい交流事業の学校訪問の中で、各学校から事前にアンケート調査を行っているので、アンケートの中で、より詳細な項目を増やすなど、そういったことを検討していき、より詳細なニーズを把握していきたい。
- 【馬場委員】この推進計画自体は、すばらしく整理されているので、意見はないが、千葉市のスポーツ全体を考えた時に、こんな視点もあるのではないかというのを、いくつかコメントしたい。まず、私自身の問題意識でもあるが、機会を提供するのも大事だと思うが、施設とか設備・用具等、そういった点でスポーツをしたくなるような環境整備はできないかと感じている。あと、こういったご時世なので、産学官連携のような点はもう少しあっても良いのかなと感じている。また、スポーツ少年団や総合型、部活、競技団体等の組織的なスポーツ団体への支援についても考えられないかと感じている。ウォーキングやジョギングなどで、スポーツ実施率が上がっているのも理解しているが、それだけだとなんか寂しい気がする。この計画自体について、意見はないが、そんな問題意識を持っているので、コメントした。
- 【萩原委員】最近、うちの小学生の子供が高洲体育館でバドミントンをしている。毎朝並んで、コート等をとっている。結構予約を取れない時があり、スポーツ施設の予約に関して、インターネットでのシステム化というのは、市民へのメリットが大きいのかなと感じている。そういったものの拡充ということについては、どのように考えているか。実際に行ってみると、思った以上に人が並んでいて、寒い中、子ども連れも多いので、なんとかならないかと感じている。
- 【山崎課長】公共施設の予約については、千葉市独自ということではなく、千葉県予約システムを使用している。色々なご意見をいただいているので、定期的に見直しということで、会合も開かれているので、集約し、意見を出していきたいと考えている。市民の方が利用しやすいように、指定管理者等とも協議し、進めていきたい。
- 【谷藤委員】前回の審議会ですべての意見を言わせてもらい、きれいに反映していただいている。この計画自体は、すごく読みやすく、わかりやすいものになっている。市がこの計画を用いて、進める、進めていくということが、もっとみんなに伝わればいいなと思っている。大学の授業で、生徒のコメントを読むと、「国・地方公共団体が、スポーツに関する施策をやっていることがわかった。ただ、授業以外では、聞いたことがない」というようなコメントがあった。この計画をどういうふうにPRして、連携していくかが今後、重要かなと感じている。
- 【高橋委員】それに付随してだが、我々も色々なイベントをやっているが、告知の問題がある。各団体・各施設の指定管理者等が色々なスポーツイベントを計画していると思うが、その情報をどこで入手するかが課題だと思う。我々も、イベントを行っているが、「そんなこと知らなかった」「ジェフさんは何もやってない」といった意見をもらったことがある。告知することの難しさを感じている。この計画も、どうやって市民全員に伝えるかが重要だと思う。何か良い告知の方法があると、もっともっとスポーツをする人が増えると思っている。
- 【山崎課長】難しいテーマであるが、告知は非常に重要と考えている。トップスポーツチーム等の意見を伺いながら、進めていきたいと考えている。
- 【萩原委員】先日行った、パラスポーツフェスタはかなり集まりが良かったと聞いている。定員よりも多く、集客できたようであるが、どのような告知を行ったのか。小学校等への周

知も行ったか。

- 【貞石課長】市政だより、オンライン、各施設への掲示を行った。また、企業や学生等と協力しながら、周知を図った。小・中学校、市立高校への周知も行った。
- 【早乙女委員】車いすソフトボールというものがあることを初めて知った。少年スポーツの立場からだが、例えばスポーツ少年団・少年スポーツ連盟は健常のお子様だけの団体のような気がする。こういった車いすスポーツで子供さんの団体などはあるのか。日本スポーツ協会は、障害者スポーツに力を入れ始めているが、まだ千葉市の中では、私の知っている範囲では、そういった団体を知らない。資料を見ると、割と大人の方が多い。健常のお子様が体験することはあるが、実際に小・中学生で車いすスポーツを行っているという報告や団体の登録はあるのか伺いたい。
- 【貞石課長】パラスポーツコンシェルジュで相談を受ける中で、年齢等に応じたマッチングは行っているが、我々としても、現状の資料で把握できておらず、申し訳ないが、お伝えできない。パラスポーツ関連では、車いすスポーツの聖地を目指し、国際大会の誘致や小・中学校への障害者アスリートの派遣や大学とも連携し、講座等を行い、障害者への理解を進めている。
- 【早乙女委員】うちの道場でも、障害児の受け入れをして、一緒に稽古をしている。障害の程度にもよると思うが、少年スポーツ連盟や少年団で指導者との相談の中で、受け入れも可能といったことを積極的に進めていけば、障害を持つ子供も、スポーツに親しみ、よりスポーツというものが広がっていくのではないかと感じている。
- 【小川(直)会長】そのほか意見はないようなので、以上で協議を終了します。ご協力ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。
- 【笠井課長補佐】ありがとうございました。スポーツ推進計画(改訂版)につきましては、今回、ご承認いただいたことから、次回の第3回審議会については、報告事項のみを郵送・メールし、書面開催とさせていただきますので、よろしく願います。それでは、これをもちまして、「令和2年度第2回千葉市スポーツ推進審議会」を終了いたします。ありがとうございました。

閉 会 午後2時50分